

はじめての授乳から、一緒に

— 口唇口蓋裂として生まれたばかりの赤ちゃんのご家族へ（哺乳期） —



ご出産、おめでとうございます。生まれたばかりのお子さんを育てることは、それだけでも大変なことです。そのうえで唇顎口蓋裂の治療も始まりますが、一つずつ順番に進めていきますので、どうぞご安心ください。

■ まず、授乳（哺乳）のこと

唇や上あごに裂があると、おっぱいやミルクをうまく吸えないことがあります。そこで、お子さんに合わせた「哺乳床」という装置を作り、しっかり飲めるようにお手伝いします。授乳の姿勢やコツも、スタッフが丁寧にお伝えします。

■ 成長を助ける「術前上顎矯正」

哺乳床に加えて、術前上顎矯正（pNAM:「ピーナム」と読みます）という方法で、上あごの形や鼻の形を、生後の早い時期からやさしく整えていきます。これにより、その後の手術の負担を軽くし、より自然な形を目指します。

■ これからの治療の見通し

おおよそ次のような流れで進みます（お子さんの状態により前後します）。

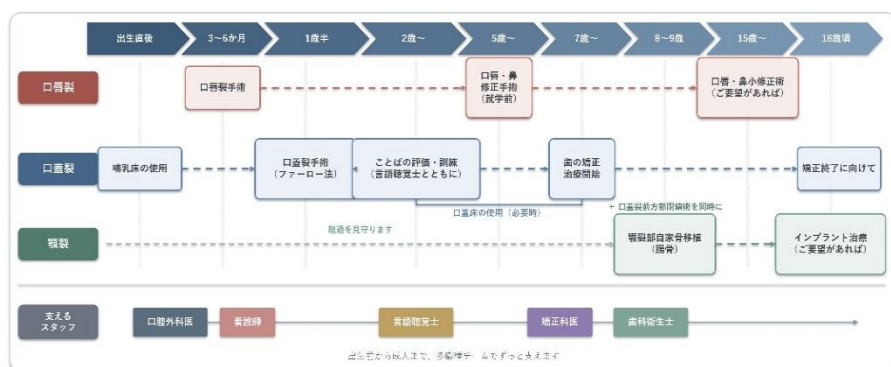
- ・ 生後まもなく：哺乳床・pNAM で、哺乳と成長を支えます
- ・ 4～6 か月ごろ：口唇の手術（見た目のバランスを大切にします）
- ・ 1 歳半ごろ：口蓋（上あご）の手術
- ・ 8 歳ごろ：あごの骨の移植（将来の歯並び・矯正治療に備えます）
- ・ 成長後：歯並び（インプラント治療）・かみ合わせや、鼻の形を整える治療



先の見通しが持てることが、いちばんの安心につながります。

■ 育児と治療の両立を、一緒に

哺乳床・術前上顎矯正は早い時期に始めることが望ましいため、できるだけ早めにご相談ください。同じ立場のご家族と学び合える説明会のご紹介や、個別のご相談の時間もご用意しています。



【ご相談・お問い合わせ】愛知学院大学歯学部附属病院 口腔外科第二診療部（口唇口蓋裂治療担当：宮部 悟）／TEL 052-759-2111（病院代表）・052-759-2160（医局直通）／産科・小児科の先生を通じてのご紹介も承ります。